

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /25）

使い方 たった一文ですが、**ここだけで語句・文法・係り結び・文学史が全部出ます**。まず声に出して読み、傍線の番号を手がかりに解いてください。

この一文が言っていること=退屈なのにまかせて、一日中、硯に向かい、心に浮かぶとりとめのないことを書きつけていたら、自分でも妙な気分になってきた。つまり『徒然草』を書きはじめた動機を述べた文章です。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

① つれづれなる② ままに、③ 日暮らし、④ 硯（すずり）に向（む）かひて、心に⑤ うつりゆく⑥ よしなしごとを、⑦ そこはかとなく⑧ 書きつくれば、⑨ あやしう⑩ こそ⑪ ものぐるほしけれ。

語注 つれづれなり=することもなく退屈だ。 日暮らし=朝から晩まで・一日中（虫の「ひぐらし」ではない）。 硯=墨をする道具。 よしなし=「由（よし）=わけ・筋道」+「なし」で、とりとめがない。 そこはかとなし=どこも特定できない。 ものぐるほし=気が変になりそうだ（「もの」は「なんとなく」を添える接頭語）。

暗誦（あんしょう）チェック ※そらで言えるか

（ ） なるままに、日暮らし、硯に向かひて、
心にうつりゆく（ ）を、そこはかとなく書きつくれば、
あやしう（ ）ものぐるほし（ ）。

A 語句の意味と読み（1～6）

① ④ 「硯（すずり）」の読みをひらがなで書け。

② ① 「つれづれなる」の意味を書け。

③ ③ 「日暮らし」の意味を書け。

④ ⑥ 「よしなしごと」の意味を書け。また、「よしなし」の成り立ちを説明せよ。

⑤ ⑦ 「そこはかとなく」の意味を書け。

⑥ ⑪ 「ものぐるほしけれ」の「ものぐるほし」の意味を書け。

B 文法（7～12） ※品詞・音便・已然形＋ば

(7) ①「つれづれなる」の品詞名と、基本形（終止形）・活用形を書け。

(8) ②「ままに」はどのような意味を表すか。

(9) ⑤「うつりゆく」を品詞分解し、それぞれ活用の種類と活用形を書け。

(10) ⑧「書きつくれば」の「ば」は何形に接続し、どのような意味を表すか。

(11) ⑨「あやしう」はもどのような形か。変化の名前も書け。

(12) ⑪「ものぐるほしけれ」の活用の種類と活用形を書け。

C 係り結び（13～15） ★この段のE

(13) ⑩と⑪の関係を、文法用語を使って説明せよ。

(14) ⑩がなかったとすると、⑪はどのような形になるか。

(15) 「こそ」以外に係り結びを起こす係助詞を四つ挙げ、その結びの活用形を書け。

D 口語訳 (16～19)

(16) ①・② 「つれづれなるままに」

(17) ③・④を含む 「日暮らし、硯に向かひて」

(18) ⑤～⑧ 「心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば」

(19) ⑨～⑪ 「あやしうこそものぐるほしけれ」

E 内容・記述 (20～22)

(20) 作者はどのような状況で何をしていると述べているか。三十字以内で書け。

(21) ⑪ 「ものぐるほしけれ」とあるが、作者がこのように感じたのはなぜか。本文に即して書け。

(22) 書名『徒然草』は本文のどの言葉から付けられたと考えられるか。その語を抜き出し、意味も書け。

F 文学史（23～25）

(23) この作品の作者名とジャンルを書け。また「随筆」とはどのような文章か説明せよ。

(24) この作品が成立したとされる時代を書け。

(25) 『枕草子』『方丈記』とこの作品を合わせて何と呼ぶか。また三作を成立の古い順に並べよ。

暗誦テスト ※本文を見ないで、序段を全文書いてみよう

【テスト直前チェック】この三つ ①「つれづれ」＝退屈・所在なさ。書名の由来もここ。 ②「こそ」→已然形「ものぐるほしけれ」の係り結び。「こそ」が無ければ終止形「ものぐるほし」。 ③「書きつくれば」は已然形＋ば＝順接の確定条件（～していると）。未然形＋ばの「～なら」ではありません。